商経アドバイス令和８年 11 月６日（金）第 6585 号

安定的取引の構築必要
用途別需要者団体会議　乱高下で原料米混乱

農水省は 10 月 19 日、東京・霞が関で「米の用途別需給に関する需要者団体会議」の第１回会合を開催した。加工、輸出、米粉、飼料などの各需要者団体から現在の動向や要望が示され、米価の安定や原料米の安定供給を求める声が相次いだ。団体ごとの報告・発言の要旨は次の通り。

▷**全国餅工業(協)・全国包装米飯協会**＝包装餅の原料となるもち米は加工用米の使用比率が高く、令和８年産の取組計画では増加傾向にあるとして安定生産を求めた。パックご飯は製造量が 26 万ﾄﾝに達するが、原料の多くは主食用米であり、加工用米の活用はレトルト製品の一部にとどまると報告した。

▷**日本冷凍食品協会**＝米価高騰の影響により、冷凍米飯の需要が拡大した一方で、令和８年は前年比で横バイか減少を見込むと説明。海外では和食文化の普及による冷凍形態の需要増に期待を示し、米価の安定と安定供給体制の構築の重要性を訴えた。

▷**全国米菓工業組合**＝国産米を極力使いたいものの価格水準によって左右されるとし、もち米や加工用米の有利で安定した価格での調達を要望した。また、検査数量以外に作付意向や面積なども把握できないかとの意見を述べた。

▷**全国味噌工業組合連合会**＝国産米の需要増加や外国産米の減少を受け、全体の需要は２～3%増加していると報告。味噌の生産・出荷量増に伴い、原料米穀の安定供給を強く要請した（資料提出）。

▷**全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（全米輸）**＝輸出は増加傾向にあり、世界的な和食や寿司・おにぎりブームを背景に、さらなる拡大の余地は十分にあるとの見通しを示した。競争力ある価格での安定供給が重要と指摘した。

▷**全国穀類工業(協)**＝８年産６月末時点の確保量は対前年１割減と厳しく、９年産の見通しは主食用米の動向などにより不確定要素が多いとした。米粉の需要に応じた生産推進や小麦混入低減、加工用米・米粉用米の安定価格確保の制度化などを要望した。

▷**日本米粉協会**＝この 5 年間で需要は約 2 倍に増加したが生産が追いついておらず、特定品種ミズホチカラなどの種子が地域で不足していると指摘。原料米価格が 3 年前比で 4 倍に高騰した一方で、需要は 30%下落（減少）と報告した。

▷**日本酒造組合中央会**＝酒造好適米の需要は調査で 8 万㌧、近年の検査数量は 9 万㌧程度で過剰感はないと報告。国税庁調査による日本酒の総使用原料米 19 万㌧のうち、酒造好適米を引いた 10 万㌧という数字も考慮する必要があると指摘した。

▷**日本飼料工業会**＝主食用米の価格上昇が飼料用米の供給減を招く構造にあり、価格や需給に左右されない長期的・安定的な供給を図るよう求めた。

▷**全農畜産生産部**＝主食用米の需給逼迫により、豚肉や鶏卵などで国産飼料用米の調達が大きく減少したと報告。必要な 12 万㌧に対し 3 万㌧しか確保できておらず、長期安定的な取引の環境整備や政府米の代替活用を求めた。

▷**日本養豚協会**＝令和 7 年は前年の半分、8 年はさらに半減と飼料用米の供給が大きく不足したと指摘。流通が混乱した令和 6 年以前の状況に早急に戻すことを要望。ミニマムアクセス（MA）米の特例販売拡大について謝意を述べた。

全体の傾向として今回の会議では、米価の高騰や主食用米の需給逼迫が、加工用米・米粉・飼料用米の調達に深刻な影響を与えている点が浮き彫りとなった。多くの団体が価格の乱高下に対して懸念を示し、事業継続のための「適正かつ安定的な価格での供給」や「長期的・安定的な取引環境の構築」を求めた。一方で、輸出や冷凍食品・米粉などの分野では需要が底堅いか、拡大傾向にあるだけに、原料確保の難しさが課題として認識された。

これを受けて農水省は、原料用米の安定供給や米価の乱高下防止に向けた安定的取引の構築が重要との認識をあらためて示した。水田政策の見直しでは、複数年契約など安定的取引に関する要件を設けることなどを検討していることを説明した。